

ぎょうだ
歴史系譜 (188)
行田の近代化遺産 21

時田家土蔵・住宅

北谷地区の蓮華寺通りの突き当たりにある白壁の土蔵(足袋蔵)をご存じでしょうか。通常足袋蔵は屋敷の奥の裏通り沿いに建てられますが、この足袋蔵は行田では珍しい(川越では良く見られる)表通りに面した袖蔵形式の土蔵です。表通りにあることから、観光ガイドなどにもよく写真が掲載されています。

この足袋蔵を建設した時田啓左衛門(時田啓左衛門商店)は、明治28年(1895)に下須戸から現在の忍1-5-25に移って足袋製造を始めました。啓左衛門は「神武足袋」(戦後は「かるた足袋」)の商標を掲げて商売を拡大し、明治35年(1902)7月に南西奥の土蔵の建設を始めました。棟札によるとこの土蔵は、約8千円の費用を掛けて、長野の大工小堀栄助、忍町行田の鳶町倉辰八、忍町の左官奥貫儀三郎らの手で同年10月に棟上げされ、翌年7月に完成しています。

その後も啓左衛門は山形県・宮城県など東北地方や山梨県を中心に販路を広げ、『行田市史資料編 近代2』に、大正6年(1917)の時田商店の手紙が掲載されています。大正時代の初めごろに表通りに面した土蔵を建設し、次いで大正11年(1922)には近くに工場を建設しています。さらに昭和4年(1929)10月には蓮華寺通り沿いに大型の足袋蔵を、下新郷の大工木村喜八郎、鳶町倉辰八らに依頼して建設しています。

啓左衛門は夜寝るとき枕元に足袋の仕上げの道具を置き、眠れないときは足袋づくりを

したと伝えられる働き者でしたが、日曜日は一切仕事をせずに英気を養う、当時としては進歩的な考えを持つ人物でした。「もうけることよりのためるほうが、結局は金が残るもの」との考えから勤勉であるとともに貯蓄にも励み、一代で財を成しましたが、終生「わしは職人上がり」と控えめで謙虚な姿勢を貫き、忍町信用組合(市報ぎょうだ8月号を参照)を創立するなど、地域の発展にも貢献しました。

東側にある表裏の表情が大きく異なる住宅は、啓左衛門の死後昭和15、16年ごろに建設されたものですが、この住宅も当時の足袋商店の隆盛を伝える貴重な近代化遺産といえます。

(文化財保護課 中島洋二)



時田家土蔵・住宅

★ **キラリ 元気** ★ No.80

… 大いなる豆・畑の肉「大豆」…

一粒は小さいですが、大豆には畑の肉といわれるほど良質なたんぱく質が含まれています。また、大豆イソフラボンも豊富で動脈硬化抑制効果も注目されています。

大豆といえば最近、行田在来種の大豆で作った関連商品が人気のようです。呉汁は、大豆をまるごと食べられ、体も温まります。いろいろな野菜を入れてお召し上がりください。

- 材料** (3~4人分)
 大豆(乾) …30g (水煮大豆なら80g) 大根…80g にんじん…40g
 小松菜…40g 長ねぎ…10g だし汁…削りぶし12g・水4カップ
 みそ…大さじ1.5

- 作り方**
 ①大豆は洗って一晩水に浸す。
 ②浸した大豆をよくすりつぶす。(フードプロセッサーを利用してもよい)
 ③大根・にんじんはいちょう切り、小松菜は1cmに切り、ねぎは薄切りにする。
 ④だし汁に大根・にんじんを入れ、柔らかくなったら②を加え、ときどき混ぜながら煮る。
 ⑤小松菜を入れ、吹きこぼれに注意しながら5~6分煮て、みそを溶き入れ長ねぎを散らす。

呉汁



栄養成分 (1人分)
 エネルギー 127kcal たんぱく質 12.0g 脂質 3.9g
 炭水化物 11.3g 食塩相当量 1.6g カルシウム 102mg

(社) 埼玉県栄養士会 行田・羽生の会

今月の表紙

古代蓮の里東側の田んぼに、巨大な古代蓮が咲きました。これは市制施行60周年を記念し、6,000平方メートルの田んぼをキャンパスに見立て「彩のかがやき」「赤もち」など6種類の稲を使い描いたもの。地上50メートルの古代蓮会館展望タワーからの眺めは圧巻です。稲刈りは11月14日に行われる予定です。

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をカセットテープに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



市報ぎょうだは再生紙を使用しています